

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-24583

(43)公開日 平成5年(1993)3月30日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 83/76				
B 0 5 B 11/00	1 0 1	7726-4D		
15/00		7726-4D		
		9036-3E	B 6 5 D 83/ 00	K

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-80672

(22)出願日 平成3年(1991)9月9日

(71)出願人 000156341

釜屋化学工業株式会社

東京都台東区浅草橋5丁目23番6号

(72)考案者 田原 登美雄

東京都板橋区加賀1丁目14番1号 釜屋化学工業株式会社東京事業本部内

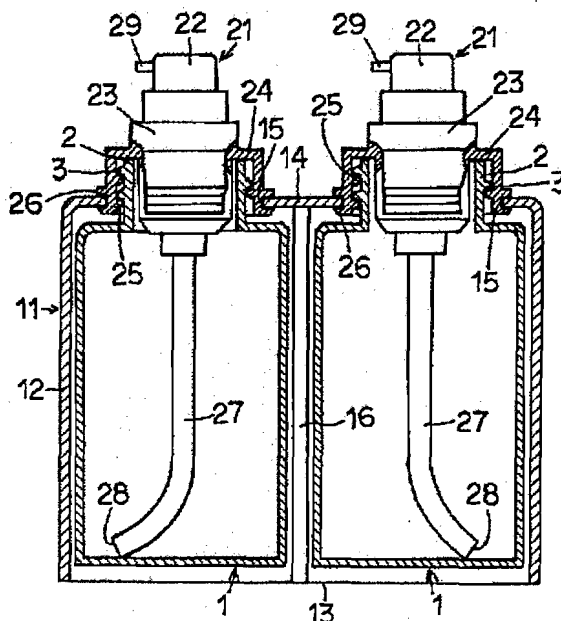
(74)代理人 弁理士 野沢 睦秋 (外1名)

(54)【考案の名称】 吐出容器

(57)【要約】

【目的】 空気を容器本体内に導入するポンプ式の分与器と剛性の容器本体とを分離可能とし内容物を補充して繰返し利用できるようにした吐出容器において、内容物の補充が簡単で且つすぐれた外観を与えることができるようにした。

【構成】 底面が開放された外容器体11の頂部に分与器21に設けたキャップ24を回転自由に装着し、容器本体1を外容器体11に回転不可に装入してその口部2のねじ3をキャップ24のねじ25にキャップ24を回転することによりねじ嵌合して分与器21に連結した。容器本体1をつけ替えて繰返し利用し、外容器体11に模様などを施して新鮮な感覚を与えるようにする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 頂端の口部にねじを有する剛性の容器本体と、底面が開放され前記容器本体を回転不可に装入した外容器体と、ねじが設けられたキャップを有しこのキャップにより前記外容器体の頂部に回転自由に装着された前記容器本体に空気を導入可能なポンプ式の分与器とを具え、前記容器本体は口部のねじが前記キャップのねじにねじ嵌合して前記分与器の吸込口が差込まれていることを特徴とする吐出容器。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施例を示す縦断面図である。

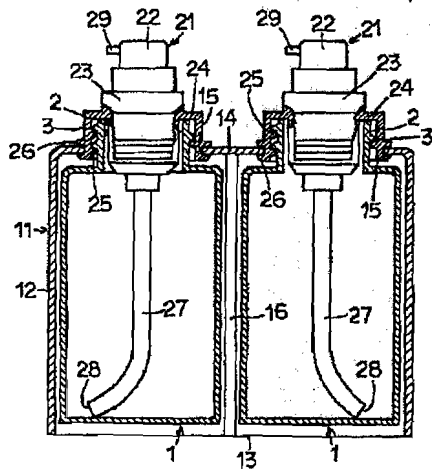
2

* 【図2】 図1の底面図である。

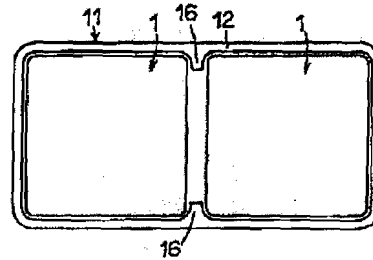
【符号の説明】

- 1 容器本体
2 口部
3 ねじ
11 外容器体
13 開放底面
21 分与器
24 キャップ
25 ねじ
10 28 吸込口

【図1】



【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は容器本体が剛性を有しており、その内容物を分与器のポンプ作用によって吐出する吐出容器であって、分与器に容器本体をつけ替えて繰返し利用できる構成とした吐出容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

化粧品、医薬品などの液状体を容器本体からとり出すため、容器本体の頂部にポンプ式の分与器を設けて内容物をほぼ一定量ずつ吐出させるようにした吐出容器は広く知られている。分与器は一般に頂部に配置した押ボタンを押してピストンを駆動することによってシリンダ内の内容物を押ボタンに設けたノズルから噴射状態で吐出し、押ボタンを釈放してシリンダ内に容器本体の内容物を送入するとともに、内容物減少分だけ空気を容器本体内に導入させて吐出に支障を与えない構成となっている（例えば実公平3-23316号公報参照）。

【0003】

即ち、分与器は構造がかなり複雑で安価ではないので、内容物を吐出しつくしたとき全体を廃棄すると資源および経済の面での損失が大きい。

【0004】

そこで、前記公報にも開示されているように、分与器を容器本体の口部にねじ嵌合して分離可能とし、内容物を吐出しつくしたとき容器本体に内容物を補給して繰返し利用することが一部で行なわれてるが、補充用の内容物を別容器から容器本体に注入しなければならず面倒であるばかりか、その際に内容物をこぼして無駄を生じたり周囲を汚すという不都合を伴いやすい。更に、このような吐出容器は容器本体の外形、意匠などが製造されたままの状態で使用されるので新鮮な感覚に乏しい、誤って落下したとき容器本体を破損することがある、という問題もある。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

本考案が解決しようとする課題は、前記従来の吐出容器を経済的に利用しようとする内容物の補充が面倒であるばかりかこぼして無駄や周囲の汚染を伴いやすい、新鮮な感覚に乏しい、或いは容器本体の衝撃保護機能がない、という点である。

【0006】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するために、本考案は頂端の口部にねじを有する剛性の容器本体と、底面が開放され容器本体を回転不可に嵌入した外容器体と、ねじが設けられたキャップを有しこのキャップにより外容器体の頂部に回転自由に装着された容器本体に空気を導入可能なポンプ式の分与器とを具え、容器本体は口部のねじがキャップのねじにねじ嵌合して分与器の吸込口が差込まれている構成とし、これにより容器本体を分与器につけ替えて経済的に利用できるとともに内容物を空の容器本体に補給するという手間をなくして簡単に繰返し使用でき、且つ外容器体によって新鮮な感覚を与え更に容器本体を保護可能な吐出容器が提供される。

【0007】

【作用】

容器本体を外容器体に底面から挿入し、口部がキャップに差込まれたとき外容器体を保持してキャップを回転させる。容器本体は外容器体に回転不可に嵌入されており、口部のねじが回転するキャップのねじと噛合って引上げられることにより完全にねじ嵌合するに至り、このとき分与器の吸込口は容器本体の内部に差込まれた状態となって内容物が吐出可能となる。また、容器本体を分離するときには外容器体を保持してキャップを前記と反対方向へ回転しねじ嵌合を解除する。

【0008】

【実施例】

図面を参照して本考案の実施例を説明すると、1は硬質合成樹脂またはガラスで横断面正方形に作られた容器本体であって、頂端の上方へ突出した円筒形の口部2の外側周面にねじ3が設けられており、単独の状態のときはふた体がねじ嵌

合して口部2を密閉している。

【0009】

11は硬質合成樹脂または金属で横断面長方形に作られた外容器体であって、周側壁12の長辺側は二個の容器本体1を小間隙を有して並べる長さを有し中央内側面に縦方向へ延びるリブ16が設けられているとともに短辺側は一個の容器本体1を小間隙を有して嵌入する長さを有し、且つ後述する分与器21に容器本体1を完全にねじ嵌合したときその底が開放底面13よりも内側となる高さを有している。また、頂壁14には二つの開口15が所定間隔で設けられている。

【0010】

分与器21は上方に突出した押ボタン22に連動してポンプ作用を行ない内容物を吸込み吐出するピストンを嵌装したシリンダ体23と、このシリンダ体23に固定したキャップ24とを有し、シリンダ体23を囲んで下方へ延びるキャップ24の裾壁の内側周面にねじ25が形成されているとともに外側周面に環状溝26が形成されており、頂壁14の開口15の周縁に環状溝26が嵌装することによって外容器体11の頂部に回転自由に装着され、更に口部2のねじ3がキャップ24のねじ25にねじ嵌合することによって外容器体1が分与器21に連結されている。

【0011】

容器本体1が外容器体11に挿入され完全にねじ嵌合して連結されたとき、口部2がキャップ24に密着しているとともに分与器21に取付けた吸上げ管27の先端の吸込口28が容器本体1の底に達している。この状態で押ボタン22を押すと内容物がノズル29から吐出され、押ボタン22を釈放すると空気が容器本体1に導入されて内部を大気圧に維持し吐出に支障を与えないものであり、このような機能をもつ分与器21としては前記実公平3-23316号公報その他に開示されている周知のものが用いられるので詳細な説明は省略する。

【0012】

次に、容器本体1を分与器21に連結するときは、口部2を開放して外容器体11の周壁の角およびリブ16に角部分を一致させて開放底面13から挿入し、口部2のねじ3がキャップ24のねじ25に衝って停止したとき外容器体11を

手で握り保持してもう一方の手でキャップ24を回転させるものである。容器本体1は外容器体11に係合して回転することなくねじ3、25の噛合いによって引上げられ完全なねじ嵌合状態となる。内容物を完全に吐出し終ったとき、外容器体11を保持してキャップ24を前記と反対方向へ回転してねじ嵌合を解除し、容器本体1を開放底面15から拔出して新しい容器本体1とつけ替える。

【0013】

従って、一組の外容器体11、分与器21に対して複数個の容器本体1を準備しておくことにより経済的に使用することができ、また外容器体11にさまざまな模様などを施すことにより新鮮な感覚を与えることができる。

【0014】

尚、図示実施例では一個の外容器体11に二個の容器本体1を装入したので異種の内容物を一個の容器で取扱い、且つ各別に任意に吐出させることができるが、一個の外容器体11に一個の容器本体1を装入する構成であってもよい。また、容器本体1が非円形横断面のときは外容器体11を同一の横断面形状とすればそのまま回転不可に装入されるが、円形横断面のときは適宜の回り止めを設けて係合させるようにする。

【0015】

【考案の効果】

以上のように剛性の容器本体を回転不可に装入した外容器体に分与器を回転自由に装着し、容器本体を分与器にねじ嵌合により連結した本考案によると、容器本体をつけ替えることにより構造が複雑で安価でない分与器を繰返し利用して経済的に使用できるとともに、内容物を簡単に且つこぼすことなく補充し無駄を生じたり周囲を汚すという不都合を伴わない。また、外容器体にさまざまな模様を施すことができるので新鮮な感覚を与えて長期間の使用を楽しませるばかりか、容器本体を外容器体の開放底面よりも内側に装入し突出させないようにすれば落下などの衝撃から保護し破損の心配をなくすものである。